【問題提起】第 6 分科会

「ともに育ちあう職場づくり　－看護・介護の喜びを伝えたい－」

運営委員（敬称略）　伊藤　絹江（福岡医療団訪問看護ステーションコスモス）
伊藤　リカ（北海道勤医協札幌西区病院）
井上　裕紀子（三郷協立病院）
助言者（敬称略）　生田　千歩（東葛看護専門学校 教務）

医療・社会保障を取りまく実態は年々深刻さを増し、人手不足が解消されぬまま、どの現場においても業務は複雑かつ高密度化し、医療機器や入力業務、書類への記載などに振り回され、看護師も介護士も「やりがいを感じない」現実に疲弊し、メンタル不全で仕事を辞めざるを得ない職員も増えてきています。安倍政権はこの現状に拍車をかけるかのように大企業を優遇し、医療に市場原理を持ち込み、消費税増税を始めとして、国民に負担を押し付けようとしています。現政権は昨年、医療関係者の反対を押し切って、医療・社会保障の切り捨てにつながる「医療・介護総合確保推進法」を通しました。看護界においては低医療費政策の一つとして「特定行為（医行為）に関わる看護師の研修制度」の 10 月実施に向けた準備が進んでいます。看護教育の現場では、安定した職を得るために看護学生が様変わりし、若い学生に混じって賃金の低い介護士が看護師を目指し、生活苦のためシングルマザーの入学が増えていると言います。看護も介護も「人がその人らしく生きる」ことに寄り添い応援することを基本に、ケアという相互の関わりを通して、自ら人間として成長できるすばらしい仕事です。

本分科会は、先に述べた厳しい情勢を正しく捉えつつ、忙しくても、辛くても「より良い看護・介護を提供したい」と奮闘する仲間の看護実践や、職員育成の取り組み、職場づくりの経験などを学びあい、看護や介護の本来の役割について考える分科会です。昨年は、社会・教育の現状と看護学生の実態についての学習会の後、職場環境の改善と看護学生への関わりの変化、青年部の活動を通じての横のつながり、労働組合青年部の活動を通じて得られた仲間について実践報告などを交えて熱心な討議が行われ、労働組合の意義とともに、青年とともに育ちあうことが必要があることを確認しました。

実践を通して感じる思いを、表現したり言語化したりすることは、日々の奮闘を改めて確認でき、やりがいにもつながります。それは後継者を育成する土台にもなります。どんな看護・介護を目指しているのか、何を大切に日々奮闘しているのか、自分を見つめなおす機会にしてみませんか。世代や働く分野を越えて語りあいましょう。そして、看護・介護本来の仕事ができるよう、それぞれが手を繋ぎ、社会に働きかける運動の組織や医療、福祉の充実を訴え、一人一人が健康で豊かに働き続ける一助となるような交流をしたいと考えています。今年も情勢や看護学生の現状に関する学習会を行います。

◇参加の呼びかけと募集するレポート

日々の看護・介護実践、職員育成の取り組み、職場づくりなど、現場の奮闘が見える実践的なレポート。また、現場を支える労働組合の活動なども募集しています。形式は問いません。

※日々の業務に疲れ、看護・介護のやりがいが見えないという方は、その思いをちょっとだけ開放するつもりで、ぜひご参加ください。若い皆さんにも、豊富な経験を持つ皆さんにも、実践者としてその誇りと喜びをきっと感じていただけると思います。多くの方のご参加をお待ちしております。